

中学生の「税についての作文」

大木町教育長賞

「コロナから考えさせられた税金について」

大木町立大木中学校

三年 中津留 陽 香

二〇一九年十二月、中国の武漢市での第一例から今では世界中で大流行している新型コロナウイルス。消毒液やマスクなどが品薄となって、いろいろなデマ情報が流れたり、インターネットでマスクが高額な値段で取り引きされ、大きな社会問題にもなった。

このようなことから国は、国民に対して何度も洗って使えるマスクの配布や、コロナ禍で失業した人や収入が減少した人のために特別定額給付金の支給といった対策をとった。特別定額給付金とは、日本における新型コロナウイルス感染症による経済的影響への緊急経済対策の一政策として、日本に住民基本台帳がある世帯主に定額の現金を給付することだ。コロナ禍で多くの人が困っている中で給付金は有り難いことだが、その一人十万円といったお金を誰がどこから出しているのかと疑問に思った。

インターネットで調べてみると、給付金は税金から払われているということが分かった。給付金の総額は、十二兆八八〇二億九三〇〇万円。こんなにも多額のお金を給付金に使い、私たちの生活を助けてくれる国に感謝しなければならない。

また税金は今回のような緊急のときだけでなく、私達の生活の様々な場面で使われている。学校で使う教科書、道路、救急車、医療費、警察など数えきれないほどのものが税金で賄っているのだ。

二〇一九年十月、消費税が八%から十%に上がった。そう聞いて私は「また高くなる、いやだな」としか思っていなかった。しかしコロナでの給付金によってその考え方は間違っているのだということに気づかされた。

「自分で稼いで貯めたお金をなぜ払う必要があるのか」こう思う人もいる。じゃあ逆に考えてみよう。税金のない世の中だったら、道路や橋が壊れた場合、私達が修理費を払わなければいけなくなる、私達が何かのトラブルに巻き込まれた時、費用を気にせず相談したり捜査や逮捕してもらいうこともできなくなる。また、子供達が安心して学ぶための費用も賄うことだって出来なくなるのだ。私達が安全に安心して暮らすためには税金は必要不可欠なのだ。

私もあと数年もしたら、大人になって働いて、自分でお金を稼ぐようになる。そのとき、税金を当たり前前に払える大人になりたい。また、私達は常に知らない誰かが払ってくれた税金に日々お世話になっている。お世話になった恩返しとして、感謝の気持ちを込めて払うべきだ。税金は、「取られるもの」ではなく「国民一人一人が豊かに暮らせるために払うもの」だということを理解してもらいたい。嫌々しく払うのではなく、納得し気持ちよく払ってもらえるようになってほしい。私達の将来がより良く、皆が明るい生活ができるように、日本国民の一人として貢献できる人材になりたい。